

Condé Nast Traveler

TRUTH IN TRAVEL

FLY SMART
RIGHT ROUTES,
TIMES, AIRPORTS

MARCH 2000

SPECIAL DESIGN ISSUE

Travel's Wild New Look

The next
7
WONDERS
IN
Paris
Berlin
Alexandria
Bilbao
Rio
Naoshima Island
Dubai

BIG!
Inside the world's
largest cruise ship

16
Sexiest hotel pools
in America

53
Great new
gizmos to go

19
Superchic
restaurants

PERFECT
A hotel 300 years
in the making

U.S.A. \$3.95
Foreign/Canada \$4.95



未来に残したい50の傑作

世界デザイン遺産。

- SEIRENSHO 3 POMPIDOU
NIZAYAMA FOREST ART
7 KAGAWA PREFECTURAL
PREFECTURAL GYMNASIUM
10 HILLSIDE TERRACE 11
THEATRE 13 PENGUIN POOL
RADISSON BLU ROYAL
PLAZA HOTEL 17 Y CHAIR 18
ORGANIC CHAIR 21 PANTON
ARTICHOKE 25 WG24 26
LIGHT SHADE SHADE 30
COFFEE SET 33 BLACK-
36 KNIFE FORK SPOON 37
EQUATOR 39 LONDON
41 FRUTIGER 42 LOGO BY
SAVOY VASE 46 LAMY 2000
SOFA 50 HUMIDIFIER VER.3

優れたデザインは人々を驚愕させ、ときには一瞬にして心を奪ってみせる。だが、そのデザインが普遍的な美しさをもち、人々にいつまでも愛され続けることはまれである。

今回のPenでは、20世紀に入ってから現在に至るまで、約100年の間にデザインされ、いままなお、現役のデザインとして活躍している50の傑作をピックアップ。これからも残しておきたい「世界デザイン遺産」として認定した。

先進的なアートの発信地や、巨匠が手がけた建築物、さらには時代を象徴するプロダクト

- 1 NAOSHIMA 2 INUJIMA ART PROJECT
CENTER 4 VITRA DESIGN MUSEUM 5
MUSEUM 6 UNITE D'HABITATION MARSEILLE
GOVERNMENT BUILDING, KAGAWA
8 BARCELONA PAVILION 9 SKANDIA CINEMA
SEATTLE CENTRAL LIBRARY 12 NISSAY
14 GATEWAY ARCH 15 ROOM 606 AT THE
HOTEL 16 IMPERIAL SUITE AT THE KEIO
STANDARD CHAIR 19 WASSILY CHAIR 20
CHAIR 22 CAB 23 CHAIR_ONE 24 PH
ARCO 27 YA YA HO 28 ROSY ANGELIS 29
GARLAND 31 USUHARI OLD 32 M-TYPE
HANDLED CUTLERY 34 TEEMA 35 PICARDIE
AMERICAN MODERN 38 BELOW THE
TUBE MAP 40 BLUE NOTE COVER ART
YUSAKU KAMEKURA 43 APPLE 44 MUJI 45
47 16 ANIMALI 48 CARLTON 49 POLDER

や、後世の手本となったグラフィック、独自の哲学をもつブランドなど、国内外を問わず、さまざまなジャンルから選んだ「世界デザイン遺産」は、すべて見逃せないものばかり。

人類がもたらした英知の結晶を、存分にご覧あれ。

●1ユーロ=133円、1ドル=90円、1ポンド=142円、1DKK(デンマーククローネ)=18円(2009年10月現在) ●電話番号の冒頭、+で始まる番号は国番号です。日本から各国へかける場合は、国番号に続き、多くの国では市外局番冒頭の0を省いてかけます。

World
Design
Heritage

永井泰史・写真 photographs by Yasushi Nagai(p36~45, p52~53, p58~61) オリヴィエ・バルディナ・写真 photographs by Olivier Bardina(p46~47, p54~55, p57, p77) ジャンニ・プレシヤ・写真 photographs by Gianni Plescia(p50~51, p81) 森本 徹・写真 photographs by Toru Morimoto(p62~63) 机 宏典・写真 photographs by Hironori Tsukue(p64~65) 山本育憲・写真 photographs by Ikonori Yamamoto(p66) 梶原敏英・写真 photographs by Toshihide Kajihara(p68~69, p74~75) 香川道子・写真&文 photographs & text by Michiko Kagawa(p70, p86~87) ミアマリア・ピーターセン・写真 photographs by Mia-Maria Petersen(p72~73, p76) 宇田川 淳・写真 photographs by Jun Udagawa(p78~79, p82~83, p96~101) 富田千恵子・写真 photographs by Chieko Tomita(p80) 青野 豊・写真 photographs by Yutaka Aono(p84~85, p93, p95) 高田昌枝・文 text by Masae Takata(p46~49, p54~57, p77) 河内秀子・文 text by Hideko Kawachi(p50~51, p81, p90) 阿部博子・文 text by Hiroko Abe(p62~63, p74~75) 横山いくこ・文 text by Ikko Yokoyama(p64~65) 新川博己・文 text by Hiroki Shinkawa(p66~69, p71) 富田千恵子・文 text by Chieko Tomita(p72~73, p76, p80) 土田貴宏・文 text by Takahiro Tsuchida(p78~79, p82~85, p96, p99) 小池高弘・文 text by Takahiro Koike(p88~89) 猪飼尚司・文 text by Hisashi Ikai(p91, p97~98, p100~101) 林 信行・文 text by Nobuyuki Hayashi(p92~93) 橋場一男・文 text by Kazuo Hashiba(p94~95) 中林友紀・スタイリング styling by Yuki Nakabayashi(p84~85) 地図屋もりそん・マップ制作 map design by Morison

可能性を秘めた、現代アートの発信地。

島ごとアートスペースにしたプロジェクトから、歴史ある街に激震を与えた美術館まで、芸術の地平を切り拓く5つの必見スポットは、ここだ！

1

1992年

直島
〈日本・香川〉
NAOSHIMA

いまでも進化を続ける、デザインと芸術の島。

瀬戸内海には、およそ3000の島が浮かぶ。そのなかで直島は、大きな島ではないが、訪れるたびにいくつもの顔を見せてくれる。まるで遠くに望む島影のように、訪れるたびに姿を変えていくのだ。

1992年に「直島コンテンポラリーアートミュージアム（現・ベネッセハウス）」がオープンして以来、さまざまな手法で世界観を広げる直島は、日本を代表するアートの聖地へと成長した。いまや島には、日本はもろろんのこと、世界中からも老若男女が訪れる。20年前、この地が飛び山であったことが、にわかには信じがたいほどだ。

自然の光を取り入れた、安藤忠雄の美術館。

大地の中を潜り込むように手探りで進むと、圧倒的なパワーをもった作品に出合える。2004年に開館した「地中美術館」だ。クロード・モネの「睡蓮の池」とともに、米国の美術作家、ウォルター・デ・マリアとジェームズ・タレルの2人の作品を展示する。

丘陵の南斜面、かつては塩田であった場所に埋め込むように配置された建築は、安藤忠雄の設計によるもの。全容を捉えることが難しい館内に現れる、絞り込まれた光のカーテンや切り取られた空。自然の光そのものが、美しい硬質のコンクリートとともに作品のひとつであるかのような。

光は作品をも引き立てる。モネが夢想したと推測される、自然光を用いた展示を実現。安藤はキレクターとともにモネの部屋を自然の光で充満させ、その絵画を目前に広がる風景のように浮かび上がらせた。2人の作家も安藤とともに空間を作り上げ、光は共通するテーマに。夏の夕暮れや冬の朝、快晴や曇天でも光は一度として同じ顔を見せないのが、訪れるたびに作品の姿がドラスティックに変わっていく。そこにはただアートがあるのではない。新しい美術体験のあり方が提示されているのだ。それは直島におけるアート活動すべてに当てはまる。

一連の活動の出発点は、「ベネッセアートサイト直島」代表の福武總一郎が、旧福武書店を創業した父・哲彦の急逝により岡山に戻ったことにある。瀬戸内は、近代の発展とともに美しさを失っていた。これに胸を痛めた福武は、父が進めていたプロジェクトを継承し、1989年に安藤の監修による「直島国際キャンプ場」をオープン。このプロジェクトを通し、現代美術に自然や歴史を融合させ、島を再生させていくという構想をまとめていった。

92年には、「ベネッセハウス」がオープン。美術館内に宿泊施設、それもス



等反地エリア

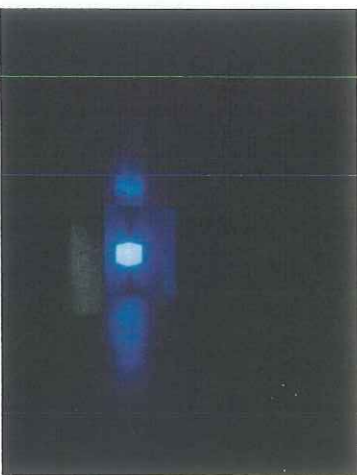
地中美術館 Chichu Art Museum

安藤忠雄の設計によって2004年開館。クロード・モネ、ウォルター・デ・マリア、ジェームズ・タレルのわずか3人のアーティストの作品が恒久展示される。作家、作品とぶつかり合うような力強くドラマチックな空間は、自然光を巧みに取り込む安藤建築ならではの建物を4番目の作品と呼ぶ声も多い。

●香川県香川郡直島町3449-1
☎087-892-3755
開 10時～17時(10月～2月)、10時～18時(3月～9月) 休月、12/30～1/2
料 ¥2,000(年間バスポート ¥10,000)
アクセス: 町営バスで「地中美術館」下車
www.chichu.jp



傾斜したコンクリート壁を通り抜け、作品が待つ空間へと向かう。切り取られた光は、時間や季節によって表情を多様に変えていく。



壁面の光が立体的に浮かび上がり彫刻のように見える。ジェームズ・タレルの「フレーム、ペールブルー」。導入部から期待が高まる。



館内の「地中カフェ」。1枚の巨大なガラスの向こう側に厳松方向を望む。外にも出ることができ、美しい瀬戸内の島並みを鑑賞可能。



宮ノ浦エリア

直島銭湯 [Iノ湯]
Naoshima Bath

アーティスト・大竹伸朗が設計協力に graf を迎え、7月26日にオープンしたばかりの公衆浴場。町民は割引価格になるなど、財団が感謝の気持ちからスタートしたプロジェクト。運営は地元自治会が行う。大竹自身も作品としての意識は希薄で、島民に長く愛される場所にしたいと語っている。

●香川県香川郡直島町2252-2
☎087-892-2626
営業14時～21時(月～金)
10時～21時(土、日、祝)
※月 料 ¥500
アクセス:宮ノ浦港より徒歩2分
www.naoshimasento.jp



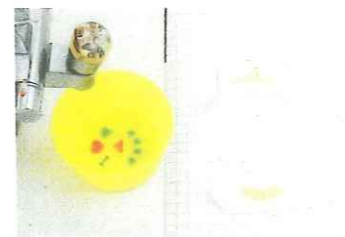
象の「サダコ」をはじめ、浴場内やタイル画から天井に至るまで、大竹の多彩な手法によって立体化した空間。浴室は定期的に男女の別を交替する。



脱衣所の壁面にはコラージュ。手前のモニター入りハイテクベンチでは、海女の映像が流れる。



脱衣所にも季節とろろなく大竹の意匠が、エッチングされた丸窓やコルトンの看板など、室内を見回してしまおう。



風呂桶、椅子もオリジナル仕様。風呂桶は番台で販売もしているので、コレクターはぜひ購入を。



浴室内のカラフルな作品。アクリル内に封入されたコラージュはもろもろすべて異なる。全を磨き上げて確認するもよし。



夜になると電飾が煌き、昼とは別の表情を見せ始める。昔ながらの番台スタイルだ。

大竹伸朗の最新作は、島民が通う公衆浴場が舞台。

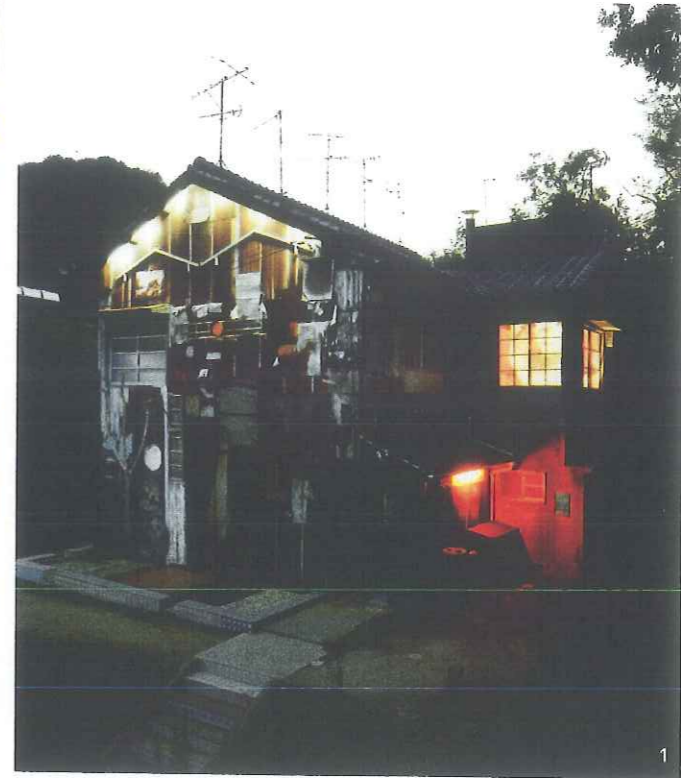
イートルームを備えたような施設は当時、世界のどこにもなかった。やがてアートは都市観光の起爆剤として認知されるようになるものの、この時点では、過疎化の進んだ地域に現代美術を展開することは稀だったのだ。

街の歴史と結びつき、町を活性化させる。

やがて施設にとどまらず、野外作品の展開が始まる。この頃から、直島ではコミッションワークに積極的な取り組みを見せている。島に訪れた作家が滞在し、完成後に恒久展示をする、直島でしか創ることのできない作品。こうした取り組みが思わぬ形で実を結んだのが、7月26日にオープンしたばかりの「直島銭湯「Iノ湯」」だ。

アーティスト・大竹伸朗が、その世界観を公衆浴場にて表現。港から徒歩数分という立地で、心身ともにアートに浸かれるというわけだ。街の中心部に現れた公衆浴場が、町民とアートとを結びつける。町とアートとの結びつきは、福武のテーマのひとつとなっている。歴史にも大きく関与する。

それが結実したひとつの形が、「家プロジェクト」だ。98年に島内の集落・本村地区にて、町民から家屋を譲渡したいとの意向が出ており、ベネッセコーポレーションに対し、譲り受けてはどうかと町が打診。これを契機に、民家を再生させながら作品づくりを行

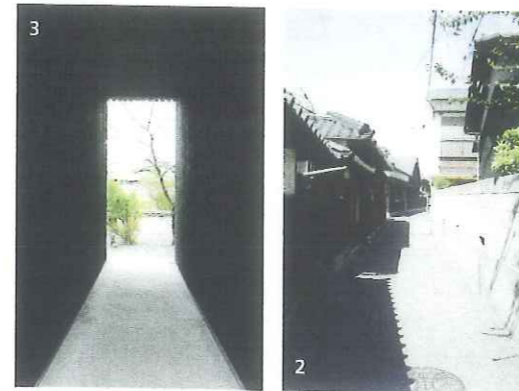


本村エリア

家プロジェクト
Art House Project

1997年に役場からの打診により、ある家屋を譲り受けたところから始まった、本村エリア内に点在するプロジェクト。作品は年代順に、宮島達男『角屋』、ジェームズ・タレル『南寺』、内藤礼『きんざ』、杉本博司『護王神社』、千住博『石橋』、須田悦弘『基会所』、大竹伸朗『はいしゃ』の計7作品。10月には千住博の『石橋』内に、新作『空の庭』が加わっている。

●10時～16時30分 ⑧月
⑨月 ¥1,000(共通チケット) ¥400(ワンサイトチケット)
アクセス: 町営バス『農協前』にて下車
※『きんざ』については予約が必要(別途¥500)。
チケットは本村ラウンジ&アーカイブほかにて購入可能。
www.naoshima-is.co.jp



Chiroshi Sugimoto. Courtesy of Benesse Art Site Naoshima and Gallery Koyanagi



1 FRPの自由の女神など内外にわたって作品が縦横に展開する、大竹伸朗『はいしゃ』。2 通り奥の曲がり角に面する家屋が、千住博『石橋』。このように作品は住宅地に点在する。3 安藤忠雄が設計を手がけた、ジェームズ・タレルの作品が収まる『南寺』のアプローチ。4 お参りする町民の姿も多々見られる、杉本博司『護王神社』。共同体の要として、人々を結びつける。

琴弾地エリア

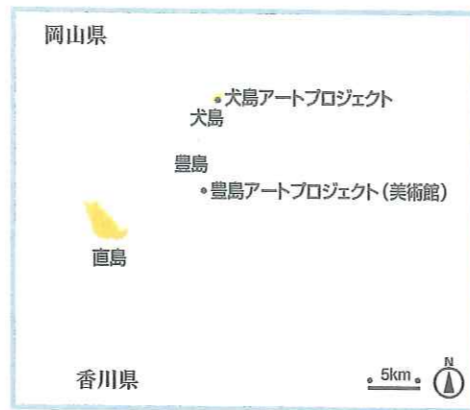
ベネッセハウス 屋外作品
Benesse House Outdoor Works

94年の『Out of Bounds』展をきっかけに、海岸沿いに多数の屋外作品を設置している。まさに直島独自の見える作品ばかりで、島内のあらゆる景色と作品とがあいまって、新たな風景を作り出す。美術館を飛び出した自由な作品たちは、散策を兼ねて見て回れるため、マップを片手に歩く鑑賞者たちで非常な賑わいを見せている。

●香川県香川郡直島町琴弾地
※詳細はベネッセハウス(41ページ参照)まで。



1 宇和島で制作された作品。浜辺に横たわる姿は漂流してきた残骸の一部のよう。大竹伸朗『シップヤード・ワークス 船尾と穴』 2 大竹伸朗『シップヤード・ワークス 切断された船首』 3 直島でも非常に人気を集める一作。草間彌生『南島』



1km



細い柱とガラス、鏡で構成された軽やかな建築。大屋根の下に人々が集う。

宮ノ浦エリア

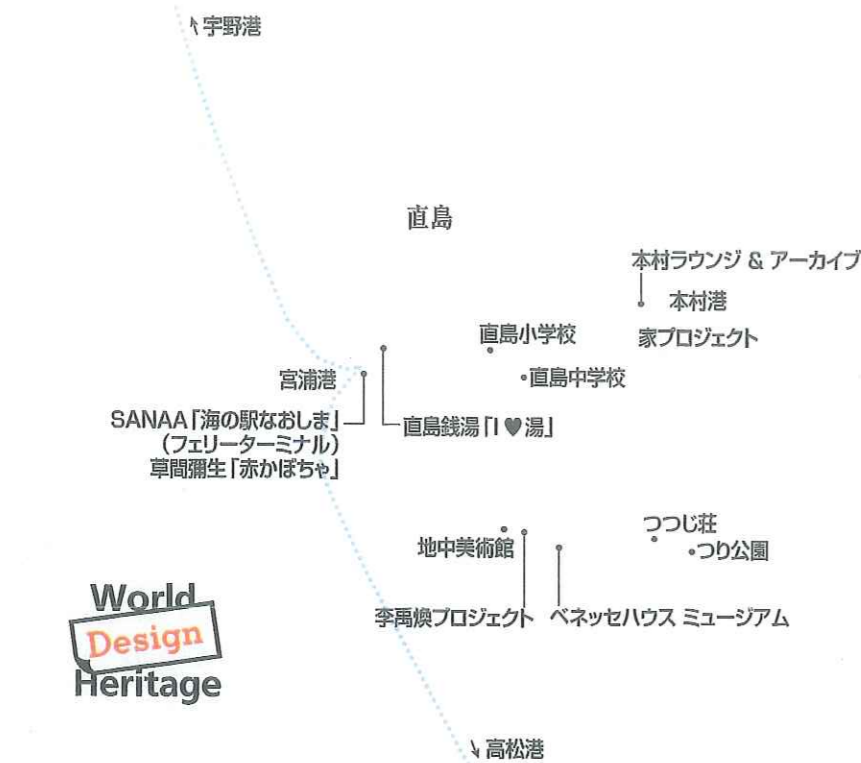
海の駅「なおしま」
NAOSHIMA Ferry Terminal

2006年10月開業。設計は妹島和世+西沢立衛/SANAA。直島の海の玄関口。フェリーチケットの販売、待合室などフェリー発着所としての機能のほか、インフォメーションセンターの役割も果たす。町営バスも発着する。

●香川県香川郡直島町2249-40
☎087・892・2299
⑨5時30分～20時30分

うコミッションワークが始まる。第1回目は、宮島達男が制作を行った。作品の中核をなす、LEDの発光するカウンターは、カウンターのタイミングを町民と協力し合って決定。作品を通して人々とアートがつながり、魔屋が新たな記憶を紡ぎ始めた。このプロジェクトはいまも継続され、ジェームズ・タレルは安藤忠雄とともに寺の跡地を、杉本博司は神社をと、民家にとどまらず集落全体をアートによって活性化させる実験的な試みがなされている。

たゆまぬ変化で広がる、瀬戸内の次なる顔。



海岸沿いの「パーク」棟。廊下にはテレジータ・フェルナンデス『ブラインド・ブルー・ランドスケープ』が。

琴弾地エリア

ベネッセハウス
Benesse House

海岸沿いに広がる宿泊施設。設計は安藤忠雄。館内には宿泊者のみ鑑賞が可能な作品も。今年4月に公開された杉本博司『光の棺』、『昔の観念』のほか、アントニー・ゴームリーやトマス・ルフらの作品が鑑賞できる。

●香川県香川郡直島町琴弾地
☎087・892・2030
www.naoshima-is.co.jp

直島の魅力は、ここしか得られない。体験にある。アートのみではなく、船で島を訪れ、町を歩き、ここしかない空間、その日にしか起こり得ない出来事を体験する。陽の光が刻々と姿を変え、ここに、この1日もまたかけがえのない体験となるだろう。直島では来夏、「もの派」を代表する作家、李禹煥の初となる個人美術館の開館を予定する。設計は安藤忠雄だ。さらに直島と近接する豊島でも「豊島アートプロジェクト」として、作家・内藤礼が、建築家・西沢立衛とともに「水滴」を題材にした美術館を開く予定だ。産業廃棄物不法投棄で美しい風景が損なわれた豊島の再生を目指す。既存のものを活かす、そこにないものを加えていくこと、いくつもの点が結びつき、島は多面的な成熟を見せている。これからは周辺の島々にも、その余波を伝播させていくようだ。瀬戸内に再び美をもたらした直島は、これからも変わり続ける。

知の力で再生した、産業遺構。

直島からフェリーで40分、岡山県の犬島にたどり着く。島内を一周しても15分という島だ。人口55人、平均年齢75歳。美しい瀬戸内海に浮かぶこの島は、産業の衰退とともに人口が減少し続けている「限界集落」である。

船着き場から島の南部に向かうと、この小さな島には不釣り合いなほど大きな煙突がいくつも目に飛び込んでくる。突如現れた産業遺構が、犬島アートプロジェクトの要となる「精錬所」。朽ちた工場跡とともに島が再び活気を取り戻したのは、2008年春だ。

未来に提言する、 環境共生型の空間。

犬島では、1909年に地元資本による銅の精錬所が開業。だが創業後すぐに銅の価格が暴落を始め、わずか10年で操業を停止している。直島福武美術館財団は直島での取り組みをさらに進め、犬島に残る精錬所を社会への提言を含むアート空間に再生させた。

環境問題にアプローチしつつ、アートワークと一体化した空間を目指すという背景から、環境に呼応した建築で高い評価を集める建築家、三分一博志を起用した。三分一は1年をかけて島の環境や遺された精錬所を調査。大量のエネルギーを消費する既存の美術館

とは異なる、化石燃料を使わない環境共生型のアート空間として甦らせた。

荒々しい黒褐色の煉瓦で造られた船着場や資材置き場の遺構から建物内部に入ると、まず光と風を身体で感じるようになる。外部からわずかに入ってくる明かりを頼りに、地中に埋め込まれた通路「アースギャラリー」を抜ける。土が外気より冷たいことを利用し、空気を冷却する空間だ。三分一は、太陽熱や地熱によって適温に変化した空気を、敷地内に残る煙突で対流させる仕組みを提案。館内の温度調節に利用している。空間が実際に機能する姿を、見学者に体感させているのだ。

採取したデータでは、夏場は約36℃の外気を約27℃まで冷却、冬場は約2℃から約18℃に採暖する。人が過ごすには十分な温度である。温度調節は窓の開閉で行うため、専門的な知識をもちたずとも簡単に使いこなせる。窓の開閉という原始的な行為の裏側には、人類の培ってきた技術や知恵があるのだ。建材も、環境負荷が少ないものを採用している。なかでも三分一が注目した素材のひとつが、島に残る黒褐色の煉瓦「カラム煉瓦」だ。精製の過程で排出される銹滓(こうさい)を固めたカラム煉瓦は、酸化鉄を多く含む非常に熱効率がよい。太陽の熱を集めるガラスのギャラリー「サンギャラリー」の床、壁にこの煉瓦を使い、蓄熱を助けている。素材の情報を読み解くことで、土地に順応した建築が可能になった。

環境負荷の削減が人類共通の課題となったいま、これからの建築は「地球との知的な関係をいかに築くか」が重要だと、三分一は話す。映画「不都合

World
Design
Heritage



再生した産業遺構から、精錬所を再
 現する。産業遺産を新たなアートワーク
 の道具として再考する。黒褐色の煉
 瓦、ガラス製煙突のサンギャ
 ラリー、石垣の内部からアースガ
 ラリーとして新たに造られた空間。

空気の流れを体感できる石垣地下のアースギャラリー。熱伝導率の高い鉄板が地熱を伝達。取熱効果が高めるよう、表面積を増すために曲線を描く壁面にした。クランクする通路で空気の体積を増す。

●岡山県岡山市東区犬島327-5
☎086・947・1112
開 10時～17時 休月、火
料 ¥1,000
※見学は3日前までに要予約。
サイト上もしくはFAXにて。
www.inujima-ap.jp



負の遺産を転換し、よりよい未来を開くカギとする。



上：敷地内の発電所跡。左：精錬所は当時の姿を残し、独特のカラム煉瓦が多く見られる。資料が残されていないため、手探りの調査となった。



World
Design
Heritage



「チムニーホール」。空気で揺れ動くアートワークを設置。太陽熱で温められた空気が煙突に流れる空気を加速し、館内の温度をコントロールする仕組みを視覚化。



「エナジーホール」にて展開される柳幸典のアートワーク「ヒーロー乾電池」。安定した温・熱環境の確保のため、アーチ状の空間を採用。

な真実」では煙突が悪者のように描かれるが、煙突は本来、優れた空気循環のシステムであることも指摘する。「環境破壊のシンボルとして煙突を排除するのではなく、一度作り出したものをいかに活用するか。煙突から汚れた空気を出すのも、きれいな空気を出すのも人の手にゆだねられています」

歴史の積み重ねで、さらなる成熟を見せる。

一方で、館内に配されたアートワークの作者は柳幸典。社会の中で消費されてきた記号を抽出し、再構築することで、その記号性を改めて問いかける作品で知られる。今回は、日本の近代化に警鐘を鳴らした三島由紀夫を題材にした。三島が暮らした渋谷区松涛の邸宅の廃材が材料だ。自然のエネルギーを感じる空間体験と呼応する形で、日本の近代化がもたらした功罪を考えさせる内容である。

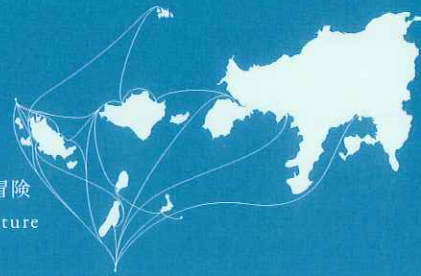
2010年に犬島は、直島をはじめ周辺の島々と連携した芸術祭「瀬戸内国際芸術祭」の会場となる。さらに、民家をリノベーションする「家プロジェクト」も予定。キュレーションを長谷川祐子、建築を妹島和世が担当する。時代に翻弄されてきた犬島が提示するシステムは、よりよい未来へとつなぐカギになるだろうか。今後、時とともに新たな成熟を見せるこの島から、目を離すことができない。



A R T

S E T O U C H I

2 0 1 0



アートと海を巡る百日間の冒険
100-Day Art and Sea Adventure

瀬戸内国際芸術祭2010

2010年7月19日|海の日|—10月31日|日

会場 | 瀬戸内海の7つの島+高松

直島、豊島、女木島、男木島、小豆島、大島、犬島、高松港周辺

主催：瀬戸内国際芸術祭実行委員会 助成：(財)文化・芸術による福武地域振興財団、文化庁
お問い合わせ：瀬戸内国際芸術祭実行委員会事務局(香川県庁瀬戸内国際芸術祭推進室内)
〒760-8570 香川県高松市番町4-1-10 Tel 087-832-3123 info@setouchi-artfest.jp
<http://setouchi-artfest.jp>

Setouchi International Art Festival

July 19th | Marine Day | — October 31st, 2010

Location | 7 Inlands of the Seto Inland Sea + Takamatsu

Naoshima, Teshima, Megijima, Ogijima, Shodoshima, Oshima, Inujima, Takamatsu Port

Organizer: Art Setouchi Executive Committee

Institutional Support: Fukutake Foundation for the Promotion of Regional Culture, Agency for Cultural Affairs
Contact: Art Setouchi Executive Committee(Kagawa Prefecture Art Setouchi Promotion Office) 4-1-10, Bancho, Takamatsu,
Kagawa 760-8570 Tel 087-832-3123 info@setouchi-artfest.jp



海の復権

Restoration of the Sea

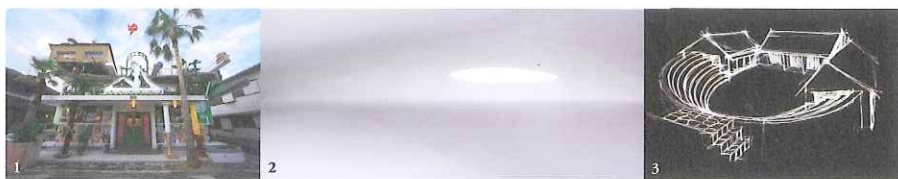
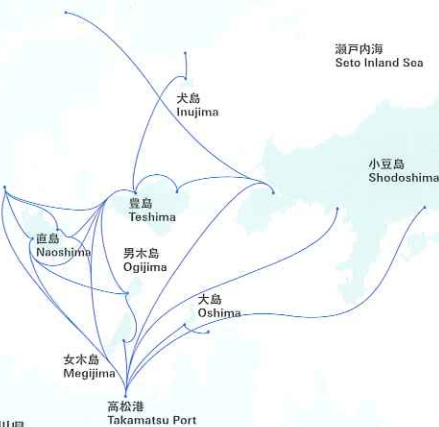
古来より交通の大動脈として重要な役割を果たしてきた瀬戸内海。行き交う船は島々に立ち寄り、常に新しい文化や様式を伝えてきました。それらは、個々の島々の固有の文化とつながり、育まれ、美しい景観とともに伝統的な風習として今に残されています。今、世界のグローバル化・効率化・均質化の流れの中で、島々の人口は減少し、高齢化が進み、地域の活力の低下によって、島の固有性は失われつつあります。私たちは、美しい自然と人間が交錯し交響してきた瀬戸内の島々に活力を取り戻し、瀬戸内海が地球上のすべての地域の『希望の海』となることを目指し、瀬戸内国際芸術祭を開催します。

実行委員会会長 | 真鍋武紀 (香川県知事) 総合プロデューサー | 福武總一郎 (財団法人 直島福武美術館財団理事長) 総合ディレクター | 北川フラム (アートディレクター)

The Seto Inland Sea has long been an important nexus of transportation. Boats from the mainland came and went, bringing new cultures and lifestyles to the islands dotting the Sea. Since then, the islands have developed their own unique cultures, which remain today, set against the backdrop of tradition. However, in today's globalizing world, the islands are losing their unique characteristics because of the aging of the populations on the islands and the decline of the local area's vitality. We are holding the International Art Festival, "Art Setouchi" in hopes of bringing this vitality back to these islands, where nature and the lifestyles of the people have coalesced together. We aim to make the Seto Inland Sea a "Sea of Hope" for the world.

Chairperson | Takeki Manabe Governor of Kagawa Prefecture General Producer | Soichiro Fukutake President, Naoshima Fukutake Art Museum Foundation
General Director | Fram Kitagawa Art Director

岡山県 Okayama



1. 大竹伸朗 直島銭湯「I♡湯」(2009) Shinro Ohtake Naoshima Bath "I♡湯"(2009) Photo: Osamu Watanabe
2. 豊島美術館 提供:西沢立衛建築設計事務所 Teshima Art Museum Courtesy of the Office of Ryue Nishizawa
3. 愛知芸大 瀬戸内アートプロジェクト Aichi Prefectural University of Fine Arts and Music - Setouchi Art Project
4. ジャウメ・プレンサ「男木島の魂」 Jaume Plensa "OGJIMA'S SOUL"
5. 王文志「大衣櫃」(参考画像) Wang Wen-Chih "Big Closet" (Reference Picture)
6. やさしい美術プロジェクト「やさしい家」(参考画像) Yasashii Bijutsu Project "Yasashii Ie"(Reference Picture) Photo: Takenori Miyamoto+Hiromi Seno
7. 大島「家プロジェクト」提供:妹島和世建築設計事務所 Inujima "Art House Project" Courtesy of Kazuyo Sejima & Associates
8. 椿昇「ネブタプロジェクト」(参考画像 京都造形芸術大学) Noboru Tsubaki "Nebuta Project" (Reference Picture - Kyoto University of Art and Design)



参加予定アーティスト、プロジェクト ※2009年12月現在 作家や場所は変更になることがあります。

[直島] 大竹伸朗/graf | 千住博 | モノクロームサーカス&服部滋樹 | 李禹煥/安藤忠雄 [豊島] 青木野枝 | 大阪芸術大学 | オラファー・エリアソン | 木下晋 | キャメロン・ロビンズ
クリスチャン・ボルタンスキー | クレア・ヒーラー&ショーン・コーデイロ | 塩田千春 | ジャネット・カーディフ&ジョージ・ビュレス・ミラー | スー・ペドレー | 戸高千世子 | トビアス・レーベルガー
内藤礼/西沢立衛 | 藤浩志 | 森万里子 | 横尾忠則 [女木島] 愛知県立芸術大学アートプロジェクトチーム | 木村崇人 | 鈴木康弘 | 禿鷹墳上 | 福武ハウス(世界のギャラリー) | 行武治美
レアンドロ・エルリッヒ | ロルフ・ユリアス [男木島] 安部良 | 井村隆 | 漆の家プロジェクト | 大岩オスカル | オンパ・ファクトリー | 川島猛とドリームフレンズ | 北山善夫 | 島こころ椅子
プロジェクトグループ5 | ジャウメ・プレンサ | 高橋治希 | 谷口智子 | 谷山恭子 | 中西中井 | 西堀隆史 | 眞壁陸二 | 松本秋則 [小豆島] 河口龍夫 | 岸本真之 | 栗田宏一 | スウ・ドー
センス・アート・スタジオ | ダダン・クリスタント | 丹治嘉彦 | 豊福亮 | 王文志 [大島] やさしい美術プロジェクト [大島] 維新派 | 藤原和 | 柳幸典/長谷川祐子/妹島和世 [高松港周辺]
大巻伸嗣 | 椿昇 | 日比野克彦 [その他] 川俣正 | ジェームズ・ダーリング | ジョゼ・デ・ギマランイス | 原研哉 | ビビロッチェ・リスト | 藤本壮介 | 淀川テクニク | VAKA

Planned Projects and Participating Artists *As of December, 2009. Selected artists and locations are subject to change.

[Naoshima] Shinro Ohtake / graf | Hiroshi Senju | Monochrome Circus & Shigeki Hattori | Lee Ufan / Tadao Ando [Teshima] Noe Aoki | Osaka University of Arts | Olafur Eliasson | Susumu Kinoshita
Cameron Robbins | Christian Boltanski | Claire Healy & Sean Cordeiro | Chiharu Shiota | Janet Cardiff & George Bures Miller | Sue Pedley | Chiyoko Todaka | Tobias Rehberger | Rei Naito / Ryue
Nishizawa | Hiroshi Fuji | Mariko Mori | Tadanori Yokoo [Megijima] Art Project Team, Aichi Prefectural University of Fine Arts and Music | Takahito Kimura | Yasuhiro Suzuki | Hagetaka Funjo
Fukutake House (World Gallery) | Harumi Yukutake | Leandro Erlich | Rolf Julius [Ogjima] Ryo Abe | Takashi Imura | Urushi House Project | Oscar Oiwa | Onba Factory | Takeshi Kawashima and
Dream Friends | Yoshio Kitayama | Shima Kokoro Isu Project Group 5 | Jaume Plensa | Haruki Takahashi | Tomoko Taniguchi | Kyoko Taniyama | Nakanishi Nakai | Takashi Nishibori | Rikuji Makabe
Akinori Matsumoto [Shodoshima] Tatsuo Kawaguchi | Masayuki Kishimoto | Koichi Kurita | Suh Do Ho | Dadang Christanto | Yoshihiko Tanji | Ryo Toyofuku | Wang Wen-Chih | Sense Art Studio
[Oshima] Yasashii Bijutsu Project [Inujima] Ishinha | Kazu Fujiwara | Yukinori Yanagi / Yuko Hasegawa / Kazuyo Sejima [Takamatsu port] Shinji Ohmaki | Noboru Tsubaki | Katsuhiko Hibino [Others]
Tadashi Kawamata | James Darling | Jose de Guimaraes | Kenya Hara | Pipilotti Rist | Yodogawa-Technique | Sou Fujimoto | VAKA

作品鑑賞パスポート ———— 会期中、本芸術祭の全作品と関連施設(地中美術館・ベネッセハウス・家プロジェクト[直島]・大島アートプロジェクト[精錬所])を鑑賞できるお得なチケットです。※
前売り販売:主要なプレイガイド、コンビニエンスストア、旅行代理店ほか お問い合わせ:芸術祭チケットセンター Tel 087-813-1450 ※一部特別施設除く
一般 | 当日5,000円(前売り4,000円) 高校生 | 当日3,000円(前売り2,500円) 中学生以下 | 無料

Art Passport ———— This is a ticket that allows you to see all of the art work of the Art Setouchi, as well as related art facilities (the Chichu Art Museum, Benesse House,
Art House Project [Naoshima], Inujima Art Project Seirensho) through the art festival's duration. *Excludes parts of the art facilities that require a special entry fee
Adults | 5,000yen(4,000yen for advanced tickets) High school students | 3,000yen(2,500yen for advanced tickets) Under 15 years old | Free